

旧庁舎のレリーフを再生、地域の伝統と風景を発信する市庁舎のアートワーク

市庁舎の建て替えによって失われる思い出のアートワークを再生したプロジェクト。旧庁舎の吹き抜け部分に設置されていた長谷川路可の壁画「繁栄」の一部を市民の声に応じて保存、再生して造成する公園に設置した。

また市庁舎を市民にとって憩いの空間とし、地域性を発信する場とするために、二つのアートワークが設置された。それらは岩国市内を流れる錦川のさまざまな水の情景と四季折々の自然を縦糸に、錦川を中心として営まれる市民の生活文化を横糸にして紡ぎ出される空間=岩国を象徴する、まちの「原風景」を集約したもの。地元高校出身の澄川喜一は錦帯橋の古材を使って作品を創っている。

作品:

1. 澄川喜一：「錦帯 - KINTAI」

エントランスに岩国市の地域遺産である名橋「錦帯橋」の古材を再生したレリーフ作品。

2. 吉田重信：「波動・龍紋・銀河」

中央の光あふれるヴォイド空間に岩国市を流れる錦川、地域の天然記念物である白蛇など地域性が渦になって発信される作品。